

平成 22 年度総会開催 新入会員とともに新たな気持ちで！

■平成 22 年度総会報告

平成 22 年 5 月 24 日、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、会員 86 名の参加のもと、平成 22 年度青年技術士交流委員会総会が開催されました。

1)平成 21 年度活動報告・決算報告

奈良幹事長より、平成 21 年度の活動報告として、平成 21 年度総会、テクニカルスクール(コーチングの基礎) 2 回、技術士の社会認知向上事業(北海学園)、設立 20 周年記念会等についての報告、および平成 21 年度の決算報告が行われ、会場の参加者に承認を頂きました。

2)平成 22 年度活動計画

引き続き、奈良幹事長より、平成 22 年度の活動計画について説明がありました。

平成 22 年度の活動の柱として、北海道の技術に関する講演会とテクニカルスクールを核とした研修会を合わせて 4 回程度、また引き続き技術系教育機関での技術支援事業を 1 回程度実施すること等について説明があり、平成 21 年度活動報告・決算報告と同様、会場の参加者に承認を頂きました。

■春期講演会

総会后、平成 22 年度春期研修会を開催し、元日本ハムファイターズの白井一幸氏による講演会を行いました。

講演「組織と部下を活かすコーチング」

講師 白井一幸様
(元日本ハムファイターズヘッドコーチ)

これまで、青年技術士交流委員会ではテクニカルスクールを開催し「コーチング」について学んできていました。今回はその集大成として、「メンタル・トレーニング」の著者である白井氏をお招きし、リーダーとしてのコーチング技術についてご講演を頂きました。



写真-1 講演風景

白井氏のお話では、リーダーとは、『組織(日本ハムファイターズ)が成功(勝利・優勝)するために、部下(選手)が成長・成功(上達・昇給?)することを手助けする役割』を担うことになるようです。

その前提に立てば、指導のための指導、リーダーの自己満足的指導は論外と仰っていました。それはどういう指導かというと、「怒る」、「教える」、「やらせる」の 3 本セットなのだそうです。

これをすると、選手は萎縮し受身になって上達は望めないそうです。時にはビシッと怒ることも必要だし教えることも必要だけれど、それをベースとする指導はダメで、選手を励ましなげ上手くいかないかを質問をし、自分で考えさせるように仕向けるこ

とが(難しいことだけど)重要なのだそうです。いかに選手が主体的に考えて行動できるようになるか、このような選手がたくさんいるチームは必ず強くなると仰っていました。



写真-2 会場の質問に真剣に向き合う白井講師

もう一つ興味をそそられたのは指導方法です。ミスすること自体は許すそうなのですが、そのプレイなり練習姿勢が、萎縮していたり、緊張感が欠如していたりするととてつもなく怒るそうなのです。

特に緊張感については、大事な試合でプレイするときには必ず緊張する(そんな試合で緊張しない選手は絶対に使わないとか)、だから練習のときから緊張した状態でしないと大事なときにミスが出るし、それ以前に自信が持てない。

確かに緊張すると頭は真っ白になり、体は硬直してしまう傾向にあるけれど、それは克服できることであり、緊張に慣れることが必要、もっと言えば緊張を楽しむことが大事である、とお話しされました。

我々技術者は、往々にして、仕事に慣れれば慣れるほど緊張に対して不感症になることがあるような気がします。部下の指導はもちろん、自分自身も緊

張感を意識した仕事をしなければいけないなあと考えた次第です(そういえば技術士の口答試験はメチャクチャ緊張しましたが、実際に想定した口答試験の練習は確かに役立ちました…)

ちなみに、日ハムが強くなった大きな要因の一つに、他の球団にはない北海道の日ハムファンと選手の関係があがっていました。リーダーと部下の良好な関係、励まし励まされる関係が、そこにあったのだということでした(ヤジがものすごい関西の黄色いチームはそれどころのじゃないとも…)。日ハムがこの講演会開催時点でリーグ最下位、借金7のため、最近微妙に野次も多いそうですが、これまで通り暖かく支えてやってください、とお願いされていました。

ユーモアを交えた非常にわかりやすい語り口でも有意義な講演会でした。講演終了後、出席した皆さんからも「とても良かった」、「ためになった」と大変好評でした。皆さん組織に戻られて、一皮むけたリーダーとして活躍されることを願っております。

■意見交換会

講演会に引き続いて意見交換会を開催いたしました。新たに合格された技術士、技術士補の方からの自己紹介を行いました。今年は例年より多い12名が登壇して熱い思いを語って頂きました。今回は、大学のJBEEE課程を経て技術士を目指す社会人一年生の参加もあり、彼らにとって会社以外の技術士との交流は良い刺激になったのではないかと思います。

また、講演会の質疑応答では時間をあまり取れなかったので、意見交換会の途中で再度白井コーチへの質問コーナーを設けました。コーチングやメンタ



写真-3 意見交換会の様子(新入会員)

ルマネジメントに関する質問について丁寧に答えていただき、また講演とは全く関係ない日ハムネタ(〇〇選手とか△△△ツムユ選手とか)についても披露してもらいました。大変盛り上がった意義のある会となりました。



写真-4 意見交換会の様子(白井講師を囲む)

■おわりに

白井講師を会場にお招きし初めてお会いしたときは、心の中で「格好いい〜」、「背が高い〜」、「声がいい〜」と感激するとともに、相対的にかなり卑屈になってしまいましたが、話している内に、すごく気さくでわかりやすい話し方をされる方で、大変気持ちよく過ごすことができました。

我々技術者もある意味で話す・伝えることを生業にしていますので、こんなに爽やかに話すことは無

理かもしれませんが、わかりやすい話をできるように心がけようと、改めて感じた次第です。

さて、今年度は青年技術士交流委員会も11期の2年目ということになります。今年も多くの若いメンバーが加入しました。彼らと同様にフレッシュな気持ちで、今まで以上に会の活動が盛り上げていきたいと考えています。今後も様々な活動・事業を鋭意実施していく予定となっておりますので、今後とも皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

表-1 第11期青年技術士交流委員会体制

委員長	樋詰透(建設)
副委員長	松澤勝(建設)、大槻政哉(総監/建設)、井上凉子(建設)、田中真也(総監/農業)
幹事長	奈良照一(総監/建設)
幹事	小澤直正(建設)、米川康(総監/応用理学)、林英雄(農業)、西村一郎(上下水道)、原田哲郎(総監/上下水)、岡宣克(建設)、福間博史(総監/建設/環境)、山本太郎(総監/建設)、長谷川圭一(建設)、川島由載(総監/建設)、佐光正和(総監/建設)、田中雄太(総監/建設)、滝澤嘉史(建設)、川村力(建設)、永田泰浩(総監/建設)、永井登茂美(総監/建設)、塩見武(総監/建設)、山下誠一(建設)

EPO(エンジニア・パーク・オンライン)のご案内

青年技術士交流委員会では、社団法人日本技術士会会員及び技術士補を含む準会員、北海道支部会友全員を対象として、メーリングリスト“エンジニア・パーク・オンライン(EPO:エポ)”を1998年(平成10年)12月1日より開設しています。2009年9月現在、590名の方が加入されています。

EPOに登録を希望される方は「①ご自身の氏名と所属」、そして「②社団法人日本技術士会の会員、準会員、北海道支部会友」であること、「③メーリングリスト登録希望」の旨を本文に書き、以下のメールアドレスまでeメールを送ってください。

※メーリングリストとは、メールに登録会員全員に同報配信する仕組みで、「特定のことがらに詳しい人を探したり」、「講習会や行事等の案内」、「会員相互の様々な情報交換」に重宝なものです。

メーリングリストEPOに関するお問い合わせについては、以下にご連絡ください。

メーリングリスト申込用メールアドレス：seigikyo@ipej-hokkaido.jp